想い出のわが母校

□ 小山小学校 □

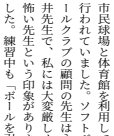
私が小山小学校に入学したのは、今から三十八年前の昭和三十五年四月で、校庭のしだれ桜が満開の頃でした。

我が母校の小山小は、明治六年「誠教学舎」と称して開校し、同三十四年名称が「小山尋常高等小学校」に改称されました。同三十六年には、同六年に開設された新民学校といっしょになって一つの学校になり、同三十七年、現在の小山センターと小山なかよしスポーツ広場の所に新しい平家建の校舎ができました。私が入学した当時は、改築された木造二階建の校舎で、昭和五十年まで大勢の児童の学び舎でありました。しかし、児童数の増加、校舎の老朽化問題などがあり、昭和五十一年に現在の所在地に移転しました。現在の所在地には決まるには、卒業生、地域の人々が「校地促進委員会」を発足させて、活動してから七年目のことだったそうです。

小山小では、地域との連携を深めるために積極的に学校を開放し、授業においても、小山の時間、を設け、たてわり全校、学年、学級の時間を活用し、楽しく豊かな学校生活の実現や地域の高齢者との交流を通して、人間理解、思いやりの心を育てるという特色ある教育活動を行っていると聞いております。

小学校生活での思い出に残っていることは沢山ありますが、中でも六年生の時のクラブ活動でソフトボールをやったことです。当時、市内の学校対抗戦のような大会があり、男子はソフトボール、女子はソフトボールで、旭町の市民球場や体育館を利用して行われていました。ソフトボールクラブの顧問の先生は永井先生で、私には大変厳しく怖い先生という印象がありました。練習中も一塊ボールを引っぱったりバットでのノックを祈り続けた。すると中から、「ゴオー、ゴオー」とまるで唱えながらようやく八幡さまの大鳥居をくぐって、山門の石段を登ろうとすると、かたわらの大杉のてっぺんから、「わっ！はっはっファー」と大きな笑い声がする。不意をつかれた金さんは、立ち止まって大杉のてっぺんに向かい、「南無八幡大菩薩、鎮めたまえ、鎮めたまえ」

昭和42年当時、小学校16校の代表選手が集まり、ソフトボール大会が行なわれていた。会場は町田市民球場（写真上）。（下）は当時の小山小学校。昭和51年に現在の所在地に移転した。



佐藤伸一郎

しだれ桜とキャッチボール

矢部八幡に現れた天狗

まちだ昔ばなし

〔町田の民話と伝承から〕

その昔、木曽は木曽村といって、大山街道の宿場であった。

道は木曽宿のはずれで二つに分かれ、右へ曲がれば山崎、図師を越えて小野路から府中へ通じていた。左の方の道は、根岸から大山を通って八王子に通じる道となる。どちらの道も木曽宿を過ぎると、山どうしとして、行けども行けども山また山の淋しい道である。特に左の方の道は、お林といって、大きな松林の茂る、昼でもうす暗い道で、山賊や追いはぎが出るといわれていた。このお林山を過ぎると、今度は八幡山という山道が続く。

だから木曽から矢部の八幡さまに行くには、大人でも一人ではこわくて行けなかった。

今から八十年ほど昔のことである。

木曽には御岳講の行者で金さん、という青年がいた。金さんは八幡さまに、百日間の丑の刻参りの願をかけた。

丑の刻参りというのは、真夜中にお参りすることなのだが、それを百日間続けるというのは並大抵のことではない。昼間でも恐ろしい山道を、たった一人で真夜中に通う中には、遠くから狼の鳴き声が聞こえたり、狐や狸にも何度も出会ったりしたという。

それはある夜のことであった。暗い山道を一心にお経を祈り続けた。すると中から、「ゴオー、ゴオー」とまるで怪獣の鳴き声のような声が聞こえてくる。

不審に思った金さんが、そっと拝殿の格子戸越しに中をのぞいて見ると、中には雲をつかむような大男が、大の字になって寝ていたのである。「天狗様だ」と金さんがすぐに気付いた。

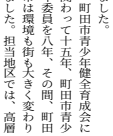
それは昔から、八幡さまの大杉には天狗が住んでいる、といい伝えられていたのである。しかし天狗様は、普通の人には決して姿を見せない。天狗の姿を見られる人は、本当に八幡さまを信仰し、一心に祈った人でなければ、その お姿を拝むことはできないといわれていた。

金さんは二、三年前から眼の病気にかかり、八幡様にお願いして目をなおしてもらうため、こうして百日間の丑の刻参りを続けていた。そして百日目に当たる夜だったのである。

それ以後金さんの目はすっかりなおり、九十才を過ぎても元気で仕事をしていた。

（木曽町）

自分再発見



中村悦子

生まれ育った町田は、丹沢の山々に囲まれ、窓を開ければ緑豊かに遠くが見え、境川は蛇行しながら流れ、木々の間からキラキラと陽ざしがこぼれ、幼き頃のよい遊び場となりました。広い自然が一日中相手となって、日が暮れるのも忘れて遊びまわり、友達とから笑いあった日々を、今でもなつかしい思い出として、大切に持っています。

そのような自然の中で、自由奔放に、そして地域の関わりや、自然の大切さを教えられながら育った私は、知らず知らずにボランティアに関わるようになりました。そして、いつの間にか二十数年がたってもら、いつも地域につながるボランティア活動を心がけてきました。

町田市青少年健全育成会に関わって十五年、町田市青少年委員を八年、その間、町田市は環境も街も大きく変わりました。担当地区では、高層マンションや道路の拡張、大きな団地、そして商業施設の進出等、短い間に都市化が進み、目を見張るほどの変化をとげてまいりました。このように、急テンポで変化していく地域で、自分としてなにができるか、なにをすればよいか私なりに考え活動してまいりました。

地域社会を育てるために私

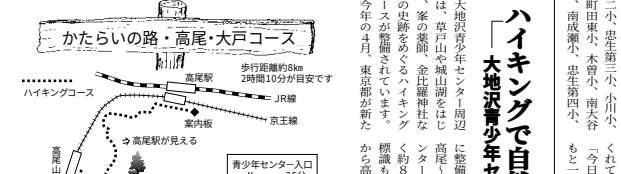
多くの人に青少年委員を知ってもらい、理解をしていただくことが必要と考え、学校、自治会、町内会、子ども会と機会があるごとに顔を出し、関わって十五年、町田市青少年委員を八年、その間、町田市は環境も街も大きく変わりました。担当地区では、高層マンションや道路の拡張、大きな団地、そして商業施設の進出等、短い間に都市化が進み、目を見張るほどの変化をとげてまいりました。このように、急テンポで変化していく地域で、自分としてなにができるか、なにをすればよいか私なりに考え活動してまいりました。

何をするのにも地域に関しては、手続きが一番必要であり、それによって全体の協力が得られ、よい結果につながる。

丁寧にうぞの皮をはがし、煮た物を木槌で打って、いよいよ和紙を漉くという。限りある原料を無駄にしないように真剣に紙を漉く姿の知恵に苦労に思い を馳せ、「紙って手間がかかるんだなあ」と、実感を持って感じたようでした。

極的にまわりながら、地域の人とのふれあいを大切にし、青少年委員の仕事への理解を得て、次の段階に進むことができました。

活動をしております。同じように、急テンポで変化していく地域で、自分としてなにができるか、なにをすればよいか私なりに考え活動してまいりました。



大地沢まつりで大地沢汁づくりに協力する青少年委員の皆さん

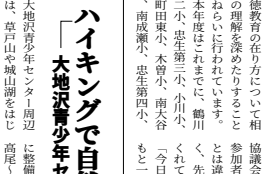
子どもたちの目が輝くとき

こうぞの枝から和紙作りに挑戦

読み深めるほど好きになった物語文

私は現在、豊かな緑に囲まれた相原小学校で、5年生の担任をしています。

一人人とりり、個性や興味の異なる子どもたちと共に学習を進めていく中で、すべての子どもが、生き生きと学ぶことが、いっこの難しさを日々感じつつ、あれこれと提案する毎日ですが、手応えのような物の原料となるこうぞが、生えていて、「総合的学習」で、和紙づくりに取り組みました。



どうやってやるのかな
早く挑戦したいな！

相原周辺の野山には、和紙

ありますが、手続きが、それぞれに学習課題を立て、学習の終わりにそれが解決するようにしようと目当てを持って、単元の学習に入りました。

様々ですが、それぞれに学習目当てを持って、単元の学習に入りました。

次に、解決の手だてを立て、自分なりの問題解決を試みました。自分の考えに自信がなく不安そうな子どもも、友達の考えを読んだり、聞いたりする中で、自信を持ったり、「そんな考えもあったのか。」と、考えを深めたりしていきました。また、豊かな感性を持った読み取りに他の子どもも、教師も思わずうーむ、とうなずく。そんな楽しい場面にも出くわしたりしました。

しかし、本格的な話し合いを交わすということは、なかなか難しく、苦心しました。意見が対立したり、子どもたちが身を乗り出すような話し合いのテーマを、教材の中から見出し、話し合いを仕掛ける。そんな仕掛け人にかりたいと試行錯誤しています。

（相原小学校校舎前　佐藤申子）

町田の野鳥

がんばれオオタカ君

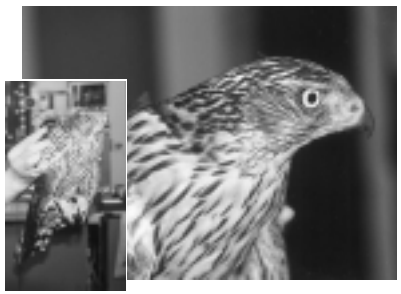
二十年ほど前には相原から鶴川、片倉にかけてのどかな里山が広がっていた。信州から出てきた老農夫が、横浜線の車窓から春霞漂の里を見て、「桃源郷か」と言った。

ところが、ニュータウン計画が拡大され、その里山は小田急線に変えられてしまった。いま、計画中止の公表を木枯らしが薄暮なでながら聞いている。消えた里山に繁殖していたオオタカが、行き場を失い相原の七国峠に引っ越してきた。わずか一キロ四方の雑木林にである。悲しいかな、そこでも安住できなかった。昨年の初夏、人の出入りが急に増えたため繁殖を続けられずまた転居した。今年の夏、転居先で生まれた幼鳥が某大学のガラスに衝突し保護されている。

こんな脈絡をまとめていたら、タカがガラスを割れるかと電話が来た。まさかと思ったが、体育館の窓ガラスが割られ、タカが床に芝然自失の状態でおり、簡単に捕まった（保護された）という。ガラスに映る緑色を識別できず、野鳥が窓に衝突する例は多々ある。学校はガラス窓が多いので衝突事故も多く、小さな野鳥は大抵死亡事故となる。ガラスを割ったオオタカの話は初めてである。

写真のオオタカは、褐色の縦縞から今年生まれの幼鳥だろう。凛々しい風貌をして いるが、経験不足だろうガラスに突入してしまった。おまけに「ここは処刑。私は誰？」状態で写真撮影までされてしまった。大空の王者もちょっと形無しのようだ。普段は、こんな持ち上げ方をしたらくちばしで食いつかれ、爪で引き裂かれ、手や腕まで血だらけになるのだが。オオタカ君よほど目が回ったらしい。しばらく後、無事に空へ飛び立ったとのこと、結構もちょっと触りたかった。オオタカに触れるなど一期一会かもしれないなど恨み言は言わず、君の未来が素晴らしいことを祈ろう。荒れ地に林が戻り、君が大人になったとき家族を養える大地があるように祈ろう。がんばれオオタカ君。

（写真　町田第二小学校校舎前　高谷孝司　文　町田野鳥の会　太田哲行）



教育委員会の動き

10月～12月

平成12年10月から12月までの間に定例会3回、臨時会1回を開催。13件の議案と24件の報告を受けました。その主なものを知らせします。

【選　挙】

○委員長選挙

選挙の結果、11月6日付で井上恭一委員（写真）が、教育委員長に任期付きました。任期は1年です。

【議　案】

○感謝状の贈呈について同意されました。

○町田市公立学校教員の処分の内申の臨時専決処理について承認されました。

○平成13年度就学時健康診断について

○「夏休み子どもフェアー」の結果について

○チャリティー古本まつり実施報告について

○第28回こどもマラソン大会のお知らせについて

井上委員長

例施行規則の一部を改正する規則について可決されました。

○各種行政委員の委嘱について同意されました。

○町田市体育施設条例施行規則の一部を改正する規則について可決されました。

○町田動労者総合スポーツ施設条例施行規則の制定について可決されました。

○学校医委嘱の専決処理について承認されました。

【報告事項】

○生涯学習部の各種展覧会について

○平成13年度就学時健康診断について

○町田市小学校教職員の人事異動について

○第28回こどもマラソン大会

出張教育相談

教育相談所では、下記の日程で出張相談を行います。不登校、進路の悩みなど、子どもたちの問題について、専門の相談員がお答えします。時間は各会場とも午前10時から正午までです。あらかじめ電話でお申し込み下さい。

教育相談所　723・4396

出張教育相談日程表

会　場	1月	2月	3月
なるせ駅前市民センター	12日(金)	13（火）	6日(火)
子どもセンター	11日(木)	8日(木)	8日(木)
堺市民センター	16日(火)	20日(火)	16日(金)
鶴川市市民センター	9日(火)	6日(火)	13（火）
忠生市民センター	18日(木)	15日(木)	15日(木)

学校での道徳授業地区公開講座にご参加を！

11月22日に実施された南成瀬小３年生による道徳公開授業

町田市教育委員会は、東京都教育委員会との共催による「道徳授業地区公開講座」を昨年度より実施しています。この講座は、学校での道徳授業の参観を通し、広く保護者、地域の方々とともに子どもたちの心の問題について協議したり、家庭・学校・地域における道徳教育の在り方について相互の理解を深めたりすることをねらいに行われています。

本年度もこれまでに、鶴川第二小、忠生第三小、小川小、本町田東小、木曽小、南大谷小、南成瀬小、忠生第四小、つくし野中、木曽中、南中と合計11校が実施しており、これからも、真光寺中（1月17日・午後1時35分～）、成瀬中央小（1月18日・午後1時35分～）、町田第一中（3月5日・午後1時25分～）が実施の予定です。

これまで実施した学校での協議会（意見交換会）では、参加者から「自分たちの時代とは違い、道徳の授業も楽しく、先生方が主体として教えていていいなあ」などの意見が寄せられています。

「今日、家に帰ったら、子どもと一緒に授業のことを話し合ってみたい。」「心に残るよい授業だった。学校がどのようなやり方で道徳の授業に取り組もうとしているのかがわかった。」地域社会と学校が協力して子どもを育てていくことが大切であると、情報交換をする意味でもこの講座は意義があると思う。」などの意見が寄せられています。

道徳教育は、学校だけでは不十分です。この講座が学校、家庭・地域が相互に連携し、子どもたちのために道徳教育を推進していくきっかけになればと考えています。

町田市では、今後とも実施校を増やし、来年度には市内小・中学校約40校で実施、また、平成14年度には全校での実施に向けて、道徳教育の一層の充実を目指していきます。

本講座の趣旨を理解いただき、多くの方々のご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。

詳しくは、指導課（☎722・3111内線3651）へお尋ねください。

ハイキングで自然を満喫

「大地沢青少年センター周辺

大地沢青少年センター周辺には、草戸山や城山湖をはじめ、峯の薬師、金比羅神社などの史跡をめぐるハイキングコースが整備されております。今年の4月、東京都が新たに整備した「かたらいの路・高尾・草戸山や城山湖をはじめ、峯の薬師、金比羅神社などの史跡をめぐるハイキングコースが整備されております。

◆交通　JR横浜線相原駅から高尾・大戸行きバスで「青少年センター入口」下車、平日は町田市民バス「まちっこ」が便利です。

大地沢青少年センター
☎782-3800